



Metals Focus – Precious Metals Weekly

貴金属ウィークリー 第 182 号 2026 年 7 月 4 日

ゴールド

米国の6月の雇用統計が予想を下回り、ゴールドは 4100 ドルを超える

シルバー

金銀比価は一時的に2月以降で初めて 70 を超えた後、67 に下がる

プラチナ

Acme Group と IHI のグリーンアンモニア生産ジョイントベンチャーは、年間生産40万トンのうち、22万 8千トン分に日本政府の支援確定

パラジウム

トヨタ自動車の5月の世界の販売高は前年比 7.2% 減って83万4千台、生産は 5.5% 減って 76万5千台

トルコの個人投資家ゴールド需要、 2026年下半期回復できるか？

トルコのゴールド市場における現物投資は、近年大きな変動を繰り返してきた。急速なインフレの進行、リラ安、そして経済や政治の先行き不安を背景に、2021年は61トンだった小型インゴットとコインの需要は、2023年に過去最高となる 150トンに急増した。しかし、その後の需要は2年連続で減少して2025年には 71トンにまで落ち込んだ。2026年第1四半期は回復したものの、2023年から2024年初頭のピーク時の水準を大きく下回ったままだ。市場関係者らによると、ここ数ヶ月の投資家センチメントは冷めており、投資は再び軟調に推移している。

しかし、この減少傾向は 2020 年代初めの非常に好調だった投資サイクルの流れの中で捉えるべきであって、経済の不安定な時期における「価値の保存手段」としてのゴールドの役割が衰えているわけではない。この調整局面後でも、トルコは 2025 年の個人投資家のゴールド需要で中国とインドに次ぐ世界第 3 位の座を維持した。

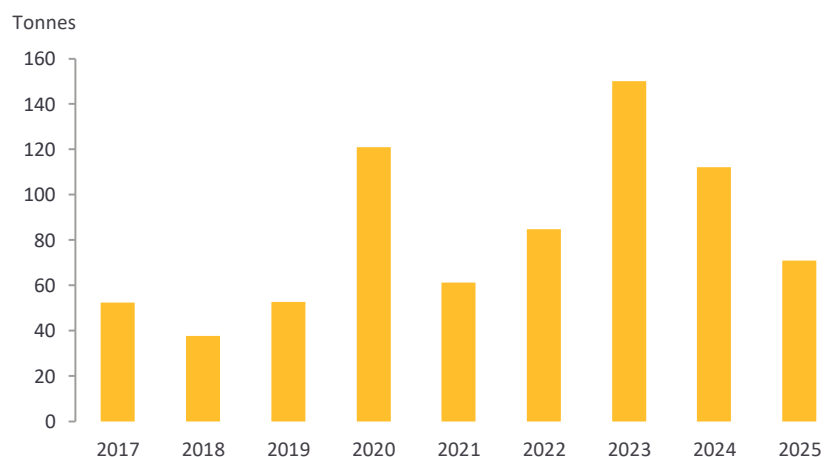
ここで重要なのは、投資ブームを後押しした大きな背景は 2024 年以降も崩れてはいないという点だ。トルコの公式インフレ率は 2023 年 12 月に 65%（非公式数値は 127%）でピークに達し、その後和らいでいるものの、2026 年 5 月時点でも 32%（非公式には 53%）と、非常に高いままだ。一方で、通貨の安定性や広範な経済リスクに対する懸念が現物のゴールドの底堅い需要を支えている。さらに、ゴールドの国際価格の上昇や中東における地政学リスクの高まりが、安全資産としてのゴールドの魅力を一段と強める。

とはいえ、投資家はトルコ国内の金融政策の動向には非常に敏感になっている。2024年にトルコ共和国中央銀行（CBRT）が金利を50%まで引き上げるなど積極的な金融引き締め策を実施したことで、リラ建て預金の利回りが大幅に上がった。それを受けてゴールドからリラへ資金がシフトし、それまで8四半期にわたり四半期あたり平均約36トンで推移していたゴールドインゴットとコインの需要は、2024年後半から急減した。

2025年の投資需要は低迷したが、年末にかけてCBRTが金融緩和策を始め市場センチメントが好転した。政策金利が43%から40.5%へと引き下げられ、ゴールド価格が再び上昇に転じたことと合わせて、ゴールドの魅力が相対的に高まり、2025年末から2026年初めにかけて現物投資は緩やかに回復した。その結果、2026年第1四半期の投資需要はネットベースで前年同期比約30%増えて26トンになった。前回のピーク時の水準には遠く及ばないものの、2024年第2四半期以来の四半期ベースでは最も多い。

供給側の状況も過去2年間で改善している。2023年に地金の輸入が過去最高になり、政府は外貨準備高と経常収支への圧力を軽減するためにゴールドの輸入制限措置を導入した。政府が定期的にゴールド準備高から在庫を市場に放出したにもかかわらず、旺盛な国内需要と相まって、2024年初めのゴールドのプレミアムは一時、200ドル/オンス前後まで上がった。その後、金融引き締め策が強化されて為替レートが安定し、また密輸されたゴールドが回収って、市場の流動性は徐々に回復した。極端な水準にあったプレミアムは下がり、買いが殺到した時期には再び200ドル/オンスを超えたが、市場環境の安定に伴って2025年は概ね落ち着きを取り戻した。

トルコのゴールド現物投資需要



しかし、2026 年に入ってから再びプレミアムの乱高下が始まる。貴金属相場の上昇で投資家の旺盛な買いが入り、1 月下旬にはプレミアムが 150 ドル/オンスを突破。その後の 2 月の大幅な価格調整で再び現物需要が高まり、プレミアムは一時 400 ドル/オンス近くまで急騰した。しかし、これは長くは続かず、4 月中旬以降はゴールド価格の上昇の勢いが弱まるにつれて現物需要が目立って減り、プレミアムは急速に下落した。2026 年 6 月までには、1 桁台のディスカウントから 2 桁台前半のプレミアムという幅に戻っている。

今後の見通しとしては、CBRT が現在行っているインフレ対策によって、金融緩和は段階的に進むだろうがインフレ率はそれほど下がらないと考えられる。しかし、ゴールド価格がさらに上昇しない限り、トルコ国内の金利水準はある程度の高さを保ち続ける可能性が高く、2023 年～2024 年のようにゴールドの需要が急激に増えることにはならないだろう。したがって、2026 年のトルコの投資需要は回復傾向にあっても伸びや緩やかで、年間の需要は近年のピークを大きく下回る見通しだ。

2026 年の残りの期間、トルコ市場のプレミアムは現物の強い買いが入れば一時的に急激に上昇する可能性はあるものの、概ね、オンスあたり 25 ドル～35 ドルの範囲内に収まるだろう。

トルコのゴールドのプレミアム/ディスカウントの動き

